

ヒメタイコウチは死体をたべるのか？

小川尚之・田中佑樹・三木康太郎（兵庫県立小野高等学校）

はじめに

ヒメタイコウチ (*Nepa Hoffmanni*)は、兵庫県、奈良県、和歌山県、香川県、岐阜県、愛知県、中国、ロシア、朝鮮半島などに生息する小型の水生昆虫である。分布や生態には謎が多く、また数も非常に少ない。そのため、日本の絶滅危惧種Ⅰ類に指定されている。私達は、この昆虫の生態の不明な点や分布がまだ不明瞭なことを解明していきたいと思い、研究に移した。そして、情報を集め精査した結果、ヒメタイコウチは生きたエサを食すという仮説を立てた。方法としては、ヒメタイコウチの餌の嗜好性から分布などを考察していく。

実験

目的：ヒメタイコウチの嗜好性を探る。

今回、私達はヒメタイコウチにミルワームを与えた。生きている餌と死んでいる餌のどちらを好むのかを調べるために、生きているミルワームと、頭を潰した死んでいるミルワームの二種類を与えた。また、ヒメタイコウチをインキュベーターの中に入れ、温度を26度に設定した。この際、飼育ケースは薄くミズゴケを敷き、水の水位はミズゴケが浸る程度にした。これは、ミルワームがおぼれ死なないようにするためである。

結果・考察

ミルワームは死んだミルワームの方が摂餌率が高かった。（表1）

表1 結果

	生きたミルワーム		死んだミルワーム		計
	食べた	食べなかった	食べた	食べなかった	
1	3	4	5	2	14
2	3	4	5	2	14
4	1	6	5	2	14
5	1	6	6	1	14
6	1	6	7	0	14
計	9	26	28	7	70

仮説とは、逆の結果となった。また、死んだ場合の食べた割合が以上に高いため、真偽を確かめるため追加実験を行った。

追加実験：死んだミルワームを実験を行ったケースと環境を等しくしたケースを用意し、そこに入れて2日後の様子を観察した。

結果：遺骸の分解が進み、死体が食後のものと似た様相を呈した。

以上の事柄より、いくつかの誤認が結果に含まれてしまっている可能性があるため、傾向があるが精査していく必要がある。

まとめ

今回の実験を通して、ヒメタイコウチは生きたエサしか食べないという通説は間違っていることがわかった。しかし、結果には懸念点も多くあるため、より詳しい実験を行っていくことで、より詳細な傾向や、その理由を解明し、ヒメタイコウチの生態の解明につなげていきたい。